

修士論文要旨

来日前と後に学習が必要な日本語に関する一分類試案 — マレーシア政府派遣学部留学生のニーズ分析から —

隈 井 正 三

平成14年度（2002年度）からの実施を目標に「日本留学試験」の開発が行われている。注目すべきは、この試験が渡日前入学許可の推進を目標に掲げている点である。このことから、近い将来、留学生にとっては「来日即入学」の機会が広がると考えられる。

これに連動して、留学生のための日本語教育について見直しが必要になってきている。この見直しには二つの側面がある。一つは、受け入れ側の大学と送り出し側の日本語教育機関の「連携」を実現する必要があるということである。もう一つは、大学生として必要な日本語すなわち「アカデミック・ジャパニーズ」の内容を明らかにしていかなければならないということである。

筆者は1994年から98年までマレーシアの予備教育機関で留学生のための日本語教育に携わり、「来日即入学」の学生を送り出す立場にあった。在任中、日本へ留学生を送り出す側の当事者として直面した問題点は、上述の見直しの内容と重なるものであった。それは次のようなことである。

- (1) 受け入れ大学と送り出し機関の間に溝がある
 - ① 留学生教育を分担しているという意識が欠けている
 - ② 日本語教育の内容が連続していない
- (2) 大学に入る時点で到達しておくべき日本語のレベルがわからない

マレーシアの予備教育機関が抱えているこのような問題を解決していこうとする努力は、そのまま留学生のための日本語教育の見直しにつながっていくものと考えられる。

これまでも、外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議（1982）や基礎日本語教育研究プロジェクト委員会（2000）等、大学入学に必要な日本語に関する調査研究は行われているが、それらが示す日本語教育の内容は、受け入れ側と送り出し側の連携を念頭においたものではなく、何よりも留学生が持っているニーズを考慮していないものであった。

そこで、本研究では留学生を対象にニーズ調査を行い、その結果に基づいた日本語教育の内容と、連携のための枠組みの試案を示すことを目標とした。

調査の対象は主としてマレーシア政府派遣学部留学生であった。彼らは「来日即入学」

留学生であり、彼らのニーズは今後期待される様々な国や地域からの「来日即入学」留学生のための日本語教育を準備する時に有益な情報になると考えられる。また、学部生に限ったのは、「日本留学試験」は学部生が対象であり、大学院生は関係がないからである。

調査には質問紙を用い、85の項目について、留学のプロセスのどの段階で学習しておくべきかを尋ねた。そして、「来日前に学習しておくべき」と回答した場合は、その項目についてどの程度まで習熟しておくべきかを聞いた。

回収できた有効票は、マレーシア政府派遣留学生から100部、マレーシア以外の留学生から68部で、回収率はそれぞれ31.4%、54.3%であった。回答者の所属大学や学年などに偏りが大きかったため、詳しい分析・考察をする対象はマレーシアの留学生に限った。分析の第一段階では質問項目から、「来日前に学習しておくべき」という回答が過半数を越えた項目を取り出した。第二段階では、取り出した項目を3つの領域に分けて吟味し、さらに領域内の項目群の整理を行った。

そして、調査の成果として、留学生のニーズに基づいた来日前の予備教育の段階で学習しておくべき日本語教育のシラバス案を作成した。これは「アカデミック・ジャパニーズ」の、ある一つの具体的な内容のあり方を示していると言える。

また、シラバス案に含まれる項目群については、来日前の学習で平均して65%程度の習熟度に達しておくことが望ましいという留学生の意識も明らかになった。

最後に、留学生を受け入れる大学と送り出す日本語教育機関の「連携」のための基盤となる枠組みを示し、その中に予備教育のシラバス案を位置付けた。その枠組みは、シラバス案はそれ自体で完結するものではなく、あくまでも留学生のための日本語教育の一部であることを示しており、初期の段階は日本語学校が分担し、その後を受けて大学が「引き継ぎ」日本語教育に当るという図式である。

この枠組みはマレーシアの場合に限らず、一般化されることを想定した留学生のための日本語教育のマスタープラン試案である。今後、より多くの調査研究の結果を取り入れてこの試案に修正を加え、汎用性を獲得していくことで、標準的なシラバスの策定と「連携」の実現が計られるものとする。

【シラバス案】

| 領域 | 種類 | 項目 |
|-------------------------|---|------------------------------------|
| 大学で必要な日本語の技能 | 受容能力 | ある程度の量のテキスト・資料を短い時間で読んで、内容を理解する |
| | | 板書、資料などを素早く読みとる |
| | | 要点を聞き取る |
| | | 文脈中で、分からない言葉の意味を推測する |
| | | 大きな全体の流れを理解する |
| | 発信能力 | 必要なことを簡条書き（かじょうがき）にする |
| | | 話や文章の大切なポイントを書く |
| | | 講義を聞きながら、ノートをとる |
| | | 適当な長さで、適当な構成のレポートを書く |
| | | 要点の簡条書きから、文脈：context のある文章を書く |
| | | 要点を理解して、ポイントがよく分かる質問をする |
| | | 指示にしたがって、簡単で分かりやすく発表（プレゼンテーション）をする |
| | | 論理的に自分の意見、考えを言う |
| 指示を理解して、様式にしたがって書類などを書く | | |
| 教科書などを英文和訳する | | |
| 学習環境整備能力 | いろいろなレベル、スタイル（敬語、formal な表現など）の話し方に対応する | |
| | 他の学生と、勉強についてのコミュニケーションをとる | |
| 生活に必要な日本語 | 生存のための日本語 | いろいろな交通機関（乗り物）を利用する |
| | | 道を聞く |
| | | 買い物をする |
| | 人間関係のための日本語 | 手紙・メールを書く |
| | | 電話で話す（友達や知人とおしゃべり、お礼、お見舞いなど） |
| | | 許可を求める |
| | | 人に何かを頼む |
| | | 断る |
| | | 説明する（自分の国や文化のことなど） |
| | | 教える（何かの使い方や、勉強・科目） |
| | | 感謝する |
| | | 謝る |
| | | ほめる |
| | 文句を言う | |
| | 定着のための日本語 | アパートを探す |
| | | 市役所 |
| | | 郵便局 |
| | | 銀行 |
| | | 電話局（NTT）・携帯電話の登録（電気屋） |
| | | 入国管理事務所 |
| | 緊急時のための日本語 | 電話で連絡する（学校、警察、消防、病院／救急車など） |
| | | 警察・交番 |
| | | 病院 |

【留学生教育のためのマスタープラン試案(マレーシアの場合)】

| 学校 | 段階 | 日本語教育の目標 | 内 容 | | 「来日即入学」課程の内容 | 担当者 |
|--------|----|---|-----------------------------------|--|--|-------------------|
| 日本語学校等 | 予1 | 予備学習前期：入門・基礎 いくつかの段階を設けて、後期の目標に近づく(段階数は教師が任意に設定) | 基本文型・語彙・文字の読み書き・会話能力など | 基礎日本語 | | 日本語教師 |
| | 予2 | 予備学習後期：総合的日本語 入学後の実際の練習に必要となる総合的な日本語の修得 | 読解・講義聴解・小論文作成の実際の練習に必要な会話も含む日本語能力 | 勉学のための日本語(基礎) [要素的なもの] ・専門を意識したトピック [技能的なもの] ・トップダウンプロセッシング 日本留学試験 65%程度 | ■大学に必要な日本語の技能 受容能力 発信能力 学習環境整備能力 ■生活に必要な日本語 生存のための日本語 定着 緊急時 人間関係 …… (詳細はシラバス表参照) | 教科教師 日本語教師 |
| 大 学 | 1年 | 実際の練習 読解・講義聴解・小論文作成が独力でできるようになる | 読解・講義聴解・小論文などの自習の指導 | 大学生生活のための日本語 | ■生活に必要な日本語 (方言、男ことば・女言葉) (ホームステイ) | 日本語教師 日本人テューター |
| | 2年 | | | 勉学のための日本語(応用) [学習技能] 専門日本語 ■大学に必要な日本語の技能 勉学のための日本語(応用) [学習技能] ■専門日本語 | 日本語教師 専門教官 日本人テューター | |
| | 3年 | 自力で専門科目に取り組み、卒論の準備ができるようになる | 日本語授業の仕上げ | 勉学のための日本語 専門日本語 | 日本語教師 専門教官 | |
| | 4年 | 研究・卒論準備 | 日本語授業無し | 専門・専攻分野の内容 | 専門教官 | |